

問2 操法大会（市・県・全国含む）の必要性について

*必要なし意見

- ・大会については、競う大会でなくても良いと思う。あくまで、練習の成果を披露する大会になれば良いと思う。ポンプ操法以外の訓練も良いのがあれば良いと思う。
- ・大会出場になると、練習の負担が大きすぎる。場所を探すのも大変です。
- ・大会前の練習で大きな時間を取られるため、家庭、家族への時間の犠牲が大きすぎる。
- ・やはり仕事終わりなど家庭があつたりすると、行けなかつたりする。
- ・操法は、基本となるものであるが、大会は時間を競っている。時間を短縮するよりも、安全で確実な操法が大切だと思うので、必要ないと思います。
- ・実践的な訓練が必要です。
- ・練習が大変。選手がいない。
- ・火災現場では、操法みたいなことは基本だけだと思います。その火災現場での対応をしなければと思います。
- ・世代の変化等で必要ないと思います。
- ・仕事を終えての過度の訓練や、早朝の訓練は、翌日の仕事にも影響があると思います。夏場の訓練は、体力の消耗も激しく若い年齢の人でもキツイ訓練なのに、年齢層の高い分団にとっては、さらに厳しい訓練だと思われます。辞令交付式時に新入団員へ2分団ほど、お披露目操法を見せるなど、消防団の基本放水作業を見せて、これからの活動に役立てたら良いと思う。
- ・コロナ禍が落ち着くまで延期するべき
- ・大会ではなく、機械器具の使用法の教育をしてもらえればよい。
- ・わざわざ大会にして、競わせる意味がないと思う。訓練内容も大会に向けたものばかりで実際に使えるのか。大会に向けての訓練は、選手にとって、時間がとられ、自分の時間がないと思う。年齢的に20・30・40代は若いからとか、その分団で人数が足りてないから出場年が回ってきたら、必ず選手として出なければいけないので、弊害がある。（正直、出たくもないし、やりたくもない）。やるのであれば、選手は各分団から出たい人が立候補して、各地区で1分団として出たほうが良いと思う。
- ・技術に順位をつける必要性があるのか疑問
- ・何か別の大会は、あった方が良くと思う。今風の消防訓練の大会にしていだけたらありがたい。
- ・操法大会で一つの分団の力を上げるのではなく、他の分団のレベルを一つでもあげるために、忙しいと思うが本職に教えに来てほしい。
- ・資料にも記載されているが、操法大会に参加するためにだけに、火災現場の実際に合わないような、タイムの短縮だけを過度に迫及するだけの大会になっているのでは？
- ・操法大会で使うような作業は、現場では必要ない。練習時間も必要になるので、仕事以外の時間が無くなる。
- ・各分団で持ちまわるのは、不要だと思う。ベテランが出場するのはおかしい。新人中心に行えば、技術を習得できて良い。

- ・今の大会は、目的がずれているのでは？操法の習得であれば、訓練で十分である。同じ団員が何度も行っている現状では、もう充分である。
- ・タイムや形式を過剰に意識しすぎて、実際の火災現場に適していない。足の開く角度や器具の置く位置等は実際の現場で役に立つのか？また、大会に向けての各団の練習期間や時期はバラバラであり、やる気のある団と無い団では圧倒的な差があると思う。
- ・大会まですることで、練習もしっかりできる。動作に自信がつき、団員の名前も覚えた。
- ・優勝したなら全国での実力を試したい。
- ・役に立たないものを大会にする必要がない。無駄
- ・消火に必要な技術は操法以外でも学べる。速さを競うことに意味がない。模擬操法を見るだけで十分。
- ・団活動において操法が必要なのか疑問に感じる。
- ・採点の不透明さ、忖度が見え隠れする順位付けで、もともと公平性に欠ける大会であった。大会を名目に数百万の予算をあてるのであれば、実際に訓練している団に振り分けてほしい。そもそも消火活動に不完全な操法を大会化する意味がない。
- ・競い合うべき事柄ではない。訓練は必要だが、大会のために集中して訓練するべきでない。
- ・各自治体、市町村にあった訓練を行なう方が重要。放水訓練、ポンプ操作、ホース延長、他の訓練の方が重要。合同訓練を行なう。
- ・今般、団員の確保が困難なうえ、高齢化が進みスピードを重視する大会への出場に無理がある。サラリーマン団員が増え大会前の大会のための訓練不足がいなめない。
- ・操法大会は、市及び県レベルまでで良いと思う。全国までは必要ない。団員の高齢化等の問題のため。
- ・高齢化している分団にとって操法でスピードを求められても若い団員がいる分団に勝てるわけがない。勝てるわけがないと分かっているにもかかわらずスピードを求めてしまい怪我をすることもある。
- ・平均年齢（出場団員）が45歳以上の分団は、県・全国への道が無くても良いので技術だけの評価をお願いしたい。
- ・古き良き大会。そろそろラストを迎えるべき。甲子園の様な実力が全てではない。言葉かけ、団員に対して負担を軽くし前に進むべき。
- ・団員の負担が大きい。大会より災害を想定した合同訓練を重視。
- ・お披露目の場所になっているのでいい。
- ・知識としての必要性は感じるが大会形式が必要な意義は何なのか？県大会・全国大会に行ったら果たして何を求めるのか？実践の場を想定しているのではなく大会を目標にしてしまっているのであれば、そもそもおかしいのでは？大会を目標にするのであれば、本当に参加したいという人のみが集まって、その大会参加者がすべての経費を賄って開催すればいいでしょう。面倒くさいから本当は参加なんてしたくない人を“団”という圧もあり無理して参加させる。報酬もあるようですが、その報酬はどこから？税金の無駄遣いでしょう。そして若者が消防団に入らない要因の一つでしょう。全く必要を感じま

せん。

- 大会に向けての訓練で過剰になり、体の負担になり、怪我などでプライベート等に支障が出る可能性がある。
- 操法大会のための訓練は不要だから、操法大会は廃止すべきである
- 全国に行ったことがないので分かりませんが、前後で言っていることと反することを言いますが、松阪の大会も訓練ではありますが、もっとお祭りの要素があってもいい気がします。消防団のイメージアップにもつながる気がします。操法は演技的な要素もありますので、もっと宣伝して、団員以外の人も呼んで、操法に出たい、消防団に入りたいて思わせるのも、ひとつの手かと。安易な考えではありますが。
- 競うことに何の意味があるのか。大会に参加するためだけの訓練が団員の負担となり、それを理由に入団をいっていただけない。
- 大会を実施すれば、団員は地域の代表として出場する事になるので、どうしてもかなりの練習をすることになり負担がかかる。大会がなければそのようなことが起こらない
- 火災時に役に立たない
- 今はNGですが、今後としてはやった方が良くと思います。
- 競技としての操法は必要ないと思うが、消防団の技術を見せる方法として、出初式等で、一般に披露できる程度の訓練はあって良いと思う。
- 年に数回消防署と合同訓練すれば良い
- 時間を競うものではなく、やるべきことをきちんとやる事の方が良いと思います。
- 消防団員の維持、増加のために、操法大会のあり方の見直しなど負担軽減をしていかなければと思います。
- 操法大会では速さが最大の目標とされ、本来の目的とかけはなれているように思える
- 現在までの形式の操法大会は必要ないと思います。大会に出るメンバーも、サポートに回る団員も、大会前の召集は、負担以外の何ものでもありません。
- 新しい訓練方法など取り入れ、それらをデモンストレーションするような形で発表するようなものが良いと思う。競うのであれば、訓練の内容で競うべきだと思う。
- 順位をつけるために市・県・全国大会をする意味があるので
- 練習など、なかなか休みの日に行うのはつらい。
- 基本操作をみんなの前でするのも良いと思います
- 操法大会の趣旨・目的が見えません！何の為の操法大会なのか？20 数年前に広域消防の方にマンツーマンで練習を受けました！それ以降、市の操法大会では紙の資料とDVDを渡されるだけで練習し大会に出場する事に。大会に出て明確になるのがタイムだけ！動作等の審査は人の目だけとアバウトな判定！審査される広域消防の方が裏で「審査基準が人により違う」と話しているのを聞きました。必死に練習しても何が悪かったのかも分からず大会を終えてしまいます。まったくヤル意味が分かりません。公平な評価をなされてなく感じます。それに団長から聞きましたが、ある分団は〇〇さんから操法の審査ポイントを聞いているから上手く出来るとか。最後に20 数年で初めて操法大会は自由参加という事を今回の資料で知りました。

- ・操法大会はあっても良いと思うが、競技として行うのであれば自由参加で良いのではないか。消火の為の訓練であれば、正しく習得できているか、披露するぐらいでいい。競技であるのなら採点結果はすべて公表すべき。
- ・技術の向上につながるのであれば必要だと思うが、事業であるなら必要はない。
- ・現状のコロナ禍で出来る限り人が集まる事は行わない方がいいと思う。行うとしても通常行っている点検等で操作方法を定期的に把握すれば今後の消火活動には問題ないと思われる。
- ・気持ち悪い。
- ・勝つことが目的ではなく基本のこともっと皆ができるようになった方が良い。
- ・幹部の自己満足
- ・やりたいと思っている人は居ないと思う。
- ・やりたくない人まで巻き込まれている。
- ・1度の大会で4名～5名しか訓練成果が出ない上、同じ団員が何度も出場するため、他の団員の技術向上に繋がらない。
- ・実施する場合は、幹部及び団員の志願がある場合のみ参加実施してほしい。
- ・本来は基礎的な技術を習得することが目的だと思うが、現状の訓練は大会で良い順位を獲得するためだけに行っている印象を受ける。
- ・大会って税金使ってやっているんですよね。
- ・操法である必要なし。
- ・目標があれば訓練意欲も沸くが、それも市の大会までです。
- ・大会については必要ないと思う。速さを競うには、年齢、体格など大きく関係するので、過疎地の高齢者など不利となる。それより基本的所作が重要である。
- ・ほとんどの一般の人は興味なし。
- ・集めるのが面倒。
- ・実働にあった訓練の実施を希望する。静岡（熱海）のような災害に対応できる研修・訓練など。あのような災害で操法が役に立ちますか？
- ・災害時に役にたたない。
- ・結果に重点を置くならやめるべき。
- ・訓練にしても大会にしても、ただ見ているだけの団員にも手当が支給されているのであれば、税金の無駄である。
- ・操法で消火活動ができれば大会の様に競う必要はない。その為に多くの時間を割く必要はないと考える。
- ・大会が終わった後、打ち上げ等、今の時代しない方がよい。
- ・競技とするとタイムなどに重点が置かれてしまう。パレードなどの催しの際にパフォーマンスとして行うことで十分と考える。加入促進広報の側面も期待される。操法訓練は有事の際に、いかに対応できるかが根幹にある、という考えで申しています。
- ・団員の新陳代謝がすすまない。新しい団員が入らない状態では、操法大会どころではなく、消防団の存続自体が危うい。

- ・選手選考が大変
- ・協力金名目で訓練参加の少ない人から徴収した。使途不明
- ・時代が違います。若い子は全国的にやらないと思う。
- ・各消防団が一堂に集まる必要性を感じられないし、遠いところから来て、たまたま、その日に火災など災害があった場合などを考えると、まったく好ましい事態ではないと思う。また、大会自体、費用なしでできるわけではないと思うので、成果に対する費用対効果もよくないと思う。文化として残したいのかもしれないし、大会に出て好成績を残したいと思う団員も少数いるかもしれないが、出場までの訓練の負担の方が大きいと思うので、個人レベルで強制されないやり方を考えるべき。やりたいと思う人がいればやりたい人だけで、やればよいと思うが、基本的には無くても全く問題ないと思う。